核戦争防止
兵庫医師の声
第 113 号　2023 年 9 月号

発行　核戦争を防止する
兵庫県医師の会

〒650－0024
神戸市中央区海岸通 1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル
５Ｆ　兵庫県保険医協会内

電話 078（393）1807
振替 01130-6-57830

核戦争を防止する兵庫県医師の会が総会

被爆者の願い　次の世代に

核戦争を防止する兵庫県医師の会（反核医師の会）は８月 19 日に協会会議室で第 42 回総会を開催。2022 年度活動報告と新年度の活動方針を確認し、郷地秀夫先生（協会理事）を代表に再任した。記念講演は、京都大学人文科学研究所教授の直野章子先生が「揺らぎゆく「反核平和」：ウクライナ戦争後のヒロシマ・ナガサキ」をテーマに講演、29 人（うち ZOOM10 人）が参加した。

直野先生は、核兵器が使われないための唯一の方法は核兵器の廃絶であり、原爆が投下された「ヒロシマ・ナガサキ」は反核平和や核兵器廃絶に向けたシンボルとなっていると解説。しかし「ヒロシマ・ナガサキ」を恐怖のイメージと結び付けることで、核兵器による報復の脅しおよび保有を肯定する「核抑止論」に利用されてしまっており、核抑止論を乗り越えて核兵器廃絶を実現しようと呼び掛けた。

また、戦後日本の「平和主義」とは、戦力の不保持を定めた憲法九条を保有しつつ、自衛隊の保有や日米安保条約を支持している状態だと解説。本来の平和主義は政府による戦争や戦争準備に対して不服従や非武装主義を貫くことを指しており、「平和憲法があるから平和主義を貫いている」わけではなく、国民は武装化しようとする国家権力に対して抵抗し、平和憲法の理念に近づけていくことが重要だとした。

被爆者の思いを受け継ぐため運動を続ける重要性を語った直野先生

最後に、戦後 10 年近く、広島や長崎の被爆の実態は明らかにされず、被爆者自身も語らなかったが、1954 年のビキニ事件（第五福竜丸事件）をきっかけに、原水爆を禁止する機運が高まり、被害者の「救済」が位置づけられるようになったと紹介。被爆者は「生き残ってしまった」という苦しみを抱え込んでいたが、原水爆禁止を願う人々と出会い自分の経験を語ることで「生きていてよかった」と運動の主体者となり、原爆生存者と支援者が結びつくことで大きな運動となったことをふまえ、「ふたたび被爆者をつくるな」という被爆者の願いを紹介しながら、次の世代にこの運動をどうつなげるかが大きな課題だとした。

原水爆禁止世界大会２０２３in長崎　参加記

日本は核兵器禁止条約に批准を

東灘区　川西 敏雄 先生

原水爆禁止 2023 年世界大会が、８月４日から８日に広島市内・長崎市内で開催された。７日から８日の長崎会場には、反核医師の会世話人の川西敏雄先生が参加し、武村義人、広川恵一両先生の医療機関から託された折り鶴を供えた。また、明石市の樫林歯科、尼崎市の野村医院から職員が参加した。会場には 2800 人、オンラインで 1500 人の計 4300 人が参加した。川西先生と樫林歯科の勝磯氏の参加記を紹介する。

原水爆禁止世界大会は毎年８月に広島・長崎で開催され、メイン会場が毎年交代する。今年のメイン会場は長崎で７～９日の予定だったが、原爆投下の日である９日に台風６号が上陸するということで、９日のプログラムが繰り上げられ、７・８日の２日間での開催となった。

兵庫県からは 80 名ほどが参加した。「広げよう！非核『神戸方式』」というスローガンが書かれたゼッケンで他の都道府県からの参加者にアピールした。寄港する全ての艦船に非核証明書を求めることにより、核搭載艦船の入港を許さないという非核「神戸方式」の認知が進んでいると感じた。

７日の開会式会場で樫林歯科の勝磯さんと合流、開会式には長崎市の鈴木史朗市長が参加し、被爆者の方の声に耳を傾け、その経験の継承が重要であることを強調し、核のない世界をつくろうと訴えられた。

夜には、保団連からの参加者の交流会が開催され、地元・長崎協会の本田孝也会長に迎えていただき、全国の活動交流・意見交換を行った。本田先生からは長崎の「黒い雨」について、広島では訴訟の結果、黒い雨被害が一部認められ

平和公園で折鶴を供えた川西先生

るようになったが、長崎は「客観的証拠がない」という理由でいまだ認められておらず、長崎協会が被爆線量を記録したデジタルマップを作成し、国・市に働きかけていることなどを教えていただいた。

長崎市主催の９日の平和祈念式典も台風のため縮小され、岸田首相をはじめとする来賓の参列もなくなった。岸田首相は、唯一の戦争被爆国の首相でありながら、G７広島サミットでは核抑止に頼る「広島ビジョン」を打ち出した。日本は核保有国と非保有国の「橋渡し役」になるといいながら、核兵器禁止条約について批准どころか、昨年の第１回締約国会議へオブザーバー参加すらしなかった。大会では、このような日本政府、岸田首相の姿勢を問う発言が相次いだ。核兵器禁止条約第１回締約国会議には、条約を批准していないドイツやオランダなどの

（次のページへつづく）

（前のページのつづき）
NATO 加盟国も、オブザーバー参加した。今年 11 月には第２回締約国会議がニューヨークで開催される。日本には少なくともオブザーバーとして参加し、核兵器を禁止しようとしている世界各国の声に耳を傾けてほしいと思う。

小林節・慶應義塾大学名誉教授は、次の選挙では政府が条約に批准するかどうかを争点とすることを提案されていた。

来年の大会のメイン会場は広島となる。貴重な機会なので、多くの先生方の参加を呼びかけたい。

平和とはなにか考える良い機会に

明石市･樫林歯科　職員　勝磯 紀代美 氏

会場入り口で兵庫県の参加者で記念撮影。右端が筆者

長崎県の佐世保で生まれ育った私には子供の頃より平和学習が割と身近なものでした。

夏休み中ですが、長崎の原爆投下の 8/9 には学校登校日になり、原爆や空襲について学習をします。

今回、世界大会のお話をいただいて多少気後れするところもありましたが、世界の国々で今も起こっている紛争やミサイル発射などのニュースが日常的にあり平和について考える良い機会になるかと思い参加しました。

心に残ったのはウクライナの平和主義運動事務局長のユーリィ・シェリアゼンコさんのお話でした。侵攻されたウクライナ側が防衛しているとウクライナの被害に関しては報道を見聞きしますがロシア側にも被害は沢山出ていて、その報道がなされていない。正義の戦争はない。すべての人々に永遠に戦争がないことを願っている。人々には平和教育が必要であることを話されていました。

分科会では佐世保の基地調査に参加しました。米軍や自衛隊が身近にあり生活の一部となっていてこれまでそれに対し疑問や違和感など持ったこともありませんでした。米軍があれば他国からの攻撃を受けても守ってもらえるんじゃないか…くらいの感覚でした。

佐世保港を短時間、船上から見学しただけでしたが弾薬庫や給油所が何ヵ所もありました。佐世保の街からは見えない場所なので普段気にも留めないその距離は近いところで数十メートルでした。弾薬庫で火が上がれば恐らく佐世保は壊滅的だと感じました。

攻撃をする側からしたらこれ程ターゲットに向いた場所はないと思います。米軍が駐留する日本はいつも危険と隣り合わせなのだと初めて体感しました。

これがユーリイさんの伝えたかった正しい報道と平和教育ということなんだろうなと感じました。８/７～９ までの３日間で開催予定でしたが、台風接近のため２日間で全行程を終えるという強行軍でしたが改めて平和とはなにかを考える良い機会となりました。ありがとうございました。

九条の会兵庫県医師の会

市民公開企画 映画「教育と愛国」上映会＆監督トーク

「政治」が締め付ける「教育」

九条の会・兵庫県医師の会は８月 27 日、協会会議室で、市民公開企画「映画『教育と愛国』上映会＆斉加監督トーク」を開催した。医師・歯科医師をはじめ多くの市民ら 80 人が参加した。

映画『教育と愛国』は戦前の反省から、政治と常に一線を画してきた戦後の教育が、大きく変わりつつある実態を描いたドキュメンタリー映画。

2006 年に第一次安倍政権下で教育基本法が改変され、「愛国心」条項が盛り込まれたのを皮切りに、「教育改革」「教育再生」の名の下、教科書検定制度が力を増していき、教育現場を抑圧していく様を、丹念な取材で記録している。

監督を務めた大阪・毎日放送の斉加尚代ディレクターは、歴史の記述をきっかけに倒産に追い込まれた大手教科書出版社の元編集者や、保守系の政治家が薦める教科書の執筆者などへのインタビュー、新しく採用が始まった教科書を使う学校や、従軍慰安婦問題など加害の歴史を教える教師・研究する大学教授へのバッシングなどにも触れ、現在の「教育と政治」の関係を描き出した。

参加者からの、日本の過去の侵略・加害の事実をなかったと思い込みたい人が増えているのではないかとの質問に、斉加監督は「歴史教科書が最も自由で、加害の歴史についての記述が豊富だったのは 1997 年の教科書だそうで、この年は日本の GDP が頂点を極めた年だ。それ以来、日本の経済は右肩下がりで、同時に日本は『美しい国』『素晴らしい国』という政治的運動が盛り上がっていく。自信をなくし、耳あたりの良い言葉に吸い寄せられていくという状況が生まれたのではないか」と経済と右派的思想の関係を解き明かした。

斉加ディレクターが会場いっぱいの参加者からの質問に答えた

参加した現役の教員からは選挙の前になると職員会議で政治的中立性が過度に強調されるとの発言や、ジェンダーや LGBTQ についてなど、若い世代は非常に優れた人権感覚を持っているが、そうした感覚を持った国民が増えるのを政府は良しとしていないのではとの意見が出された。

西山裕康世話人が謝辞として「アメリカ言いなりに兵器を購入し、一方で多くの子どもが３食食べられず、全国に 7000 もあるボランティアの子ども食堂に頼っている社会だ。政治家こそ愛国心や教育が必要だ。戦前、戦中の世代にしない。その自覚を持って活動をしていこう」と呼びかけた。

核戦争を防止する兵庫県医師の会

2023 年度会費　ご入金のお願い

いつも反核医師の会にご協力を賜りありがとうございます。全国反核医師のつどいやさまざまな企画開催等、反核医師の会の活動は、皆さまの会費で成り立っています。

同封の振り込み用紙にて新年度会費（年額 5000 円）のお振り込みをお願いします。すでに 2023 年度分をいただいている先生もおられますが、募金にもぜひご協力ください。